

## 施設・産業

**質** 道路の新設改良費の工事請負は道路後退用地の整備に122万円、寄15号線道路改良工事に627万円。将来的な事業の道路用地は8万7千円とわずかですが、町内道路整備計画はどうか考えているか。

**答** (まちづくり課)  
平成28年に策定した町道整備基本計画に基づき、優先順位を定めて事業を進捗する。

**質** YHV管理運営委託料191万9160円は、事業が単発で、一貫性がないように思われるがどうか。

**答** (観光経済課)  
寄地域の人口が減少が加速する中、昔整備した資源が、時代のニーズとズレが生じ、うまく機能しなくなっている。人や拠点がつながり、連携していけるよう取り組む。

**質** 飲食店組合と協働で、サクラムスの寿司や、サトイモジャムの開発がありました。今はどのような状況か。

**答** (観光経済課)  
サクラムスの寿司は、作成に手間がかかるため、1年中の販売はできていません。サトイモのジャムは、製造・販売まで至っていない状況。

**質** 商工振興の店舗のリノベーション支援は、何件が利用し、効果はどうか。

**答** (観光経済課)  
空き家を店舗に活用するためのリノベーション支援の補助金で、1件50万円を支出しました。

**質** YHV管理運営委託事業の商品開発で、特産品開発はどういった効果で、また、どのような特産品が地域経済にどう反

映したのか。

**答** (観光経済課)

平成28年度から、特産品、ブランド化に向けて取り組んでいます。丹沢大山茶と、まだ形にはなっていないがジビエ関係の産品開発を行っている。

**質** YHV事業推進支援委託料430万円は、寄の振興にどう寄与したのか。

**答** (観光経済課)  
既存の資源を活用した体験プログラムの開発や農泊を推進。また、酒米づくりでオール松田産の日本酒「松田美人」が誕生した。

**質** 商工振興費の特産品開発事業とYHV管理運営委託事業の商品開発の違いについて。

**答** (観光経済課)  
基本的に、YHV事業の商品開発は寄地区でこれから新しい産品を作っていくもので、商工振興費は松田地区で商品化を

目指していくもの。

**質** 地籍調査委託料1060万5千円は、国庫から5699万余円を特定財源としている。進捗と効果をどう予測するか。

**答** (まちづくり課)  
平成30年度6ha実施し、市街化区域198haに対し71ha実施済み

## 教育・その他

**質** 閉鎖された寄中学校の校舎の清掃、消防設備の保守点検、浄化槽の維持管理等はどうなっているのか。

**答** (教育課)  
すぐにも使えるようにということ。寄小学校の予算の中で管理に関する経費は計上している。

**質** 2020年より小学3年生以上の英語教育の強化が図られるが、講師や教員についてはどうなるのか。

となり、約35%の進捗率である。地籍調査の効果としては、官民双方にとって、将来の土地取り引き等での測量等の経費が落ちる。大規模災害で構造物が消失した場合でも境界確定ができる。町全体で地籍の増加により増収が見込まれる。

**答** (教育課)  
教員に校内外での研修を行っている。ALIT(外国語指導助手)は、引き続き雇用し、教員をサポートする。

**質** 図書館の経費が年々、先細りしているようだが、図書館が持つ重要性をしっかりと認識をし、更なる現状維持に努められたらいい。

**答** (教育課)  
予算は限られてはいるが、本の購入に際して厳



子育て支援センターなどが入る創生推進拠点施設(旧土木事務所)

選をする。図書館という機能であるので、多くの人たちに足を運んでもらえるよう努力をしていく。